

令和2年11月2日発行

ふる里からの「ふくろうだより」11月号

今年の指針 “輝”

HP検索: [ライサービスセンターふる里](#)

長崎県 大村市 鬼橋町 1416番地  
 TEL (0957) 27-4500  
 FAX (0957) 27-4501

## “沖縄「首里城」火災から一年”

昨年令和元年(2019年)8月10日、Vファーレン長崎が琉球FCと対戦するのでその応援のため私は家内と次男と三人で沖縄に行きました。土曜午前中の飛行機に乗り、私だけ日曜の午前中に帰るという強行スケジュールでの一泊二日の旅行。夕方までの時間に、第二次世界大戦時、沖縄防衛の陸軍第三十二軍最後の地となったところで、沖縄戦の組織的戦闘が終結した“摩文仁の丘”を見て、サッカー会場に行きました。試合は2対3で負け残念な気持ちで帰路についたのを覚えています。家内と次男は、もう一日延ばして、沖縄観光を堪能したようです。帰ってからたくさんの思い出話を聞きました。美ら海水族館、コバルトブルーの海、国際通り、沖縄の歴史・文化を象徴する城で、琉球王国の歴史そのものでもある首里城、…楽しく話してくれました。そうそう、オリオンドラフトビールが美味しかったこと、民族衣装でもある“かりゆし”の話。「お父さん(私)にもお土産買って来たよ。安かったとさ。」って、しっかりした生地、素敵な色合いの“かりゆし”でした。

それから約2か月経った10月31日早朝、ニュースで「首里城の火災」が報じられました。家内が「首里城が火事になってる。」と第一声、ビックリして起きてきました。“沖縄”といえば“首里城”と“守礼の門”は沖縄の象徴で、沖縄県民の心の支えと思っています。あの他県では見られないカラフルな色彩をした首里城が燃えている。「どうなっていくのだろう。」と心臓の鼓動が高鳴っていたのを覚えています。アナウンサーが沖縄県民の皆さんにマイクを向けていました。「沖縄が燃えている。」「ただただ悲しい。」、また、地元の子どもの様子を見守ってきた女性が、「泣きながら登校する子どももいた。(燃えているのを見るのが)怖くて現場には行けない。」と。首里城の消失は、正に、沖縄県民の喪失感になっていました。あれから一年が経ちました。日本一の観光県は、コロナ感染が多く、厳しい昨今ですが、首里城再建に向け、県民みんなが願いを込めていらっしゃいます。

ふる里の建物は、カステラ色の建物です。カステラは、長崎県を代表する銘菓です。今年、湖畔の宿ふる里もカステラ色を採用して頂きました。長崎市の三省建築研究所設計士の三好会長様。伸栄建設(株)の高尾社長様には、ふる里の歴史を象徴する建設に携わり、誠心誠意努めて頂いたことに深く感謝しています。入居者様、利用者様もぼちぼち入られ、職員も研修を積みながら「誰からも信頼される、安心して生活できる“湖畔の宿ふる里”にしよう。」と、業務に従事しています。緊張感もかなりのものですが、これからの歴史を築いていくわけですから、私自身も期待の目で応援しています。私自身ふる里の運営・経営には、職員のみならず、利用者・入居者の方が期待を持って、楽しく有意義な生活が営まれるよう持てる力を十分に発揮して参りたい。そして、沖縄県民が首里城に抱く思いのように、ふる里職員が高齢者福祉の象徴としてふる里の建物に思いを抱けるよう歴史を築いていこうと思います。

From センター長 森 隆敏



10月行事は、ふる里恒例の『ミニミニ運動会』。20日(火)、21日(水)、22日(木)の三日間行いました。今回の行事は、職員と利用者さんの皆で声を掛け合いながら一致団結しよう!の目的で運動会を開催しました。今年は、運動会の競技も今までの競技と違って新しいものを考えました。職員も新鮮で、ドキドキワクワクしながら行事を迎えることが出来ました。

プログラム1番、「選手入場」から始まりました。紅白に分かれた利用者の皆さんもとても緊張されていたと思います。そして、センター長による「開会宣言」をし、全員で“若い力”を歌いました。今年は、歌詞を用意していたので皆さんと大きな声を出して歌うことが出来ました。



プログラム2番、「選手宣誓」は、紅白のチーム代表者が1名ずつ前に出て、選手宣誓を行いました。代表になられた方は緊張されていたと思いますが、チームの代表という事もありしっかり役目を全うされ両チームに気合が入ったことと感じました。



プログラム3番、「準備運動」。職員が前に立ちラジオ体操をしました。利用者さんの中では、立って体操される方も多く皆さんの、“やる気十分!”という感じがしました。



プログラム4番、「パクッと丸ぼうろ」。手を使わずに、口や肩を使い挟んだりしてゴールを目指す競技。各チーム2名ずつ出てきて4名で競いました。皆さん上手に口や肩を使い競技に集中されていました。周りの方々の応援の声も力強く、大いに賑わいました。

火曜日  
水曜日  
木曜日

パクッと丸ぼうろ



プログラム5番、「引いて、投げて、猛ダッシュ」。この競技には“運”も関係し、1から3までの数字が書いてあるカードを引き、その数のボールをかごに入れゴールを目指す競技。日頃のレクリエーションで培った経験を生かされながら上手にかごに入れ、ゴールに向かって猛ダッシュされていました。

火曜日  
水曜日  
木曜日

引いて投げて猛ダッシュ



プログラム6番、「応援合戦」。職員主体の演技で、この日のために互いに内緒にして、練習をしました。本番に強い職員、皆さんのかけ声もあって堂々たるものでした。全体が一つになりふる里の団結を感じました。



プログラム8番、「たくさん送ってちょ」。利用者様のチームプレーで、15mのロープを使い、端から端へ筒をたくさん送ったチームの勝ちという競技。簡単そうで、難しい競技でしたが皆さん一生懸命頑張っていました。



プログラム9番、職員団体競技「とにかくやってみよう!」。第1障害は、ピンポン玉をストローを使って器に移したり、倒れたペットボトル3本を椅子に座った状態で足だけで立てる。それが出来たら第2障害、背負子でボールキャッチ、そして最後の競技は、背負子を背負って三輪車でふる里内を1周して次の走者へバトンタッチとなります。早く全員が終わったチームが勝ちとなります。最後の競技なので、みんなでの応援も力が入り盛り上がりました。



全ての競技が終わると、次は「結果発表!」。を行う前に、全員で十分身体を動かしたので「整理体操」を行いました。結果がとても気に入られていたと思いますが、整理体操にもしっかり参加されていました。いよいよ「結果発表!」です…



今回は、優勝旗と共に“くす玉”を用意して、優勝したチームの方に割って頂きました。最後に割れた“くす玉”に「お～、すごい！」と、皆さんの反応がとても良かったのが印象的でした。



## ～結果発表～



今回の行事は、三日間秋日和の天候で、まさに運動会日和でした。また、怪我などなく無事に終われた事が一番でした。  
行事担当 中邑 典子 白石 奈智子

## 訪問ボランティア

13日(火)に、『歌城会様』と『久美歌様』による踊りの訪問ボランティアがありました。着物の衣装も様々でも綺麗でした。踊りでも、皆さんが知っている曲をたくさん用意されていて素晴らしい披露をされました。お知り合いの方がいらっしゃったりして、久しぶりにお会いすることが出来たなど、利用者さんがとても喜ばれている姿を見ることが出来て本当に嬉しかったです。



## 皆で踊る炭坑節

## 在宅介護支援センター ふる里

【在宅介護支援センターふる里】とは…

社会福祉法人として設立され運営している事業です。地域の身近な総合相談窓口として、福祉専門のソーシャルワーカーが安心生活のため様々な相談に応じます。また、地域の老人会や趣味サークルを中心とした団体等に介護予防教室、健康体操、レクリエーションの指導を行い、生活の安心と喜び、地域の活力が生み出されるように取り組んでおります。相談に関する手数料やご利用に係る料金は無料です。



お気軽に皆さまの地域の身近なパートナーとしてご活用下さい。

## 十一月の行事予定

◆ふる里11月行事 『ふる里 秋合戦』  
17日(火)・18日(水)・19日(木)

◆生花教室 ～齊藤マサミ先生～ 7日(土)・27日(金)

◆書道教室 ～中村 朱実 先生～ 9日(月)・26日(木)

◆おはなしの部屋～鐘ヶ江先生他～ 23日(月)  
※1 ふる里おはなしの部屋の時は、午前中入浴となりますので、皆様のご協力を宜しくお願いします。

◆押し花教室 ～中村壽美子先生～ 24日(火)

◆麻雀・将棋・囲碁 … 毎週水曜日午後  
(4日、11日、18日、25日予定)



## 今月の作品



左の写真は、ふる里の側に咲いている“コスモス”の写真です。毎年とてもきれいに咲いていて、利用者の皆さんに見ていただきたい、ふる里にも写真を掲示しています。送迎の時に紹介もして見ることが出来ると皆さん喜んでいただけるので、とても嬉しいです。今年は、コロナの影響などで外出などできない状況が多く計画を立てることが出来ていませんでした。送迎時に、このように季節を感じる事が出来るのは、とても嬉しいことだと思いました。 編集後記 末永直己